

研究者リーダーシッププログラム

「第 6 回 プログラムを振り返って(プログラム総括)」

第 1 回から 5 回までのリーダーシッププログラムに参加しての感想を参加者間で共有した。参加者によって印象に残ったことや学びが異なり、感想を共有されたことで、想起したことや新たな気づきも生まれた。リーダーシップを果敢に発揮している講師の在り方や思考法や、無意識のバイアス、スケジュールの見える化、仕事を割り当てる時間帯の工夫など、改めて意識して自己マネジメントに取り入れていきたいと感じた。

本プログラムで各回の内容は納得することはあるものの、これらを総合的に考えたときのバランスが難しいと感じた。例えば、第 1 回「参加者による自己紹介とリーダーシップについて」では、“仕事はなるべく断らない”という考え方を提供いただいた。一方で、第 2 回「キャリアを考える」では、“仕事に優先順位をつけ”、“興味のある仕事には飛びつくこと”が大事とコメントがあった。タイムマネジメントの観点からは、工夫して効率を上げることはできるものの、与えられている時間は有限である。指導研究者からは、すべての仕事を請け負うと自分の身を削ることになるため、ボランティアにならないよう、どのようにして論文化につながる仕事であるのかを考えること、と指導されることがある。どの考えが正解というわけではなく、周囲に対してリーダーシップを発揮すること、自身を牽引すること、自分の心身を守ることなど、様々な観点からみたときに、それぞれの重要度は個人の性格や信念、あるいは時と場合によって異なると思う。ディスカッションの中でも画一的なリーダーシップはない、とコメントもあり、その時々で何が効果的であるのかを一呼吸おいて考え、選択していければと思う。